

15) 香川県

末広喜代一（香川大学教育学部生物学教室）

(1) 調査への取り組み

香川県では香川大学教育学部生物学教室内に「タンポポ調査・西日本 2010・香川県実行委員会」の事務局を置き、おもに「香川植物の会」のメンバーと香川大学教育学部生物学教室の4年生が中心になって調査を行った。また、実働メンバーは重なるが、「香川生物学会」や「みんなで作る自然史博物館・香川」でも取り組むことになった。さらに、高等学校に勤務している「香川植物の会」のメンバーが、香川県高等学校教育研究会生物・地学部に参加を呼びかけ、香川県下高等学校の生物教員の指導によって、県内の高等学校でもタンポポ調査に取り組んだ。

香川県では、これまで高松市の市街地において、1980年と1981年、その10年後の1990年に詳しいタンポポの分布調査を行っている（末広ほか、1989；末広・新見、2010）。それらの結果と比較することを目的に、香川大学教育学部生物学教室の4年生が高松市市街地とその周辺で、住宅地図を使った詳しい分布調査も行った。また、高松市の西南部に位置する綾川町畑田周辺、香川県東部の東かがわ市三本松周辺でも、住宅地図を使った詳しい分布調査を行った。

調査の趣旨や方法の説明は、2009年1月11日に「香川植物の会」のメンバーを対象に行い、2009年3月1日に開催された同会の野外観察会では、綾川町の現地でタンポポの頭花の採集をしながら調査方法の説明を行った。また、2010年4月17日には「みんなで作る自然史博物館・香川」の主催で、高松市郊外の公洲森林公園で一般参加者を対象にタンポポ調査の方法の説明と実習を行った。

実行委員会に寄せられた頭花サンプル等の整理や花粉の観察は香川大学教育学部生物学教室の4年生が中心になって行った。寄せられたサンプルのうち、位置情報がなかったり、間違っているサンプルについては、調査者がわかる場合には個別に問い合わせ位置を確認したが、調査者を特定できないため無効となったサンプルもあった。頭花サンプルがない場合は原則として無効としたが、外来タンポポについては、種子だけでセイヨウかアカミかを定めることが出来る場合には有効とした。

(2) 調査結果の概要

① サンプル数と外来種の比率

香川県では予備調査と本調査をあわせて約350名の方から8376件の有効サンプルが寄せられた。有効サンプルは、次ページの図1に示すように香川県全体から広くえられているが均一ではなく、住宅地図で詳しい調査を行った高松市市街地などの地域で特に多かった。また、全体として香川県中部地域のサンプルが多く、西部や東部の地域や島嶼部のサンプルは少なかった。

有効サンプルの内訳は、表1の通りであった。在来種として、カンサイタンポポとシロバナタンポポのほか、クシバタンポポのサンプルが1件だけ寄せられた。香川県の外来種のサンプル数の割合は、37.8%であったが、この値は2005年の近畿地方でのいずれの府県の値よりは小さかったが、市街地での調査サンプルが多い実情から考えると、実際に生育しているタンポポの外来種比率はもっと低いものと考えられる。

表1 香川県における種類別サンプル数

種類	サンプル数	比率 (%)
在来種		
カンサイタンポポ	5069	60.52
シロバナタンポポ	140	1.67
クシバタンポポ	1	0.01
雑種を含む外来種		
セイヨウタンポポ	514	6.14
アカミタンポポ	731	8.73
不明(外来種)	1921	22.93
外来種合計	3166	37.80
合計	8376	100.00

② タンポポの分布メッシュ

香川県のタンポポ調査結果を図2に6つの分布メッシュ図で示した。「外来種」というのは、アカミタンポポとセイヨウタンポポのほか、種子がなかったため種名が不明の外来種を含んだ分布メッシュである。外来種には雑種である可能性のあるものも含まれている。2種の外来種の分布図を比較してみると、アカミタンポポの分布が沿岸の都市部に集中しており、あとの地域はごく散発的に見られるだけであるのに対して、セイヨウタンポポは、都市部にやや多いものの香川県下により広く見られることがわかる。在来種のカンサイタンポポは、香川県全体に広く見られ、平野部だけでなく、山間部でも集落があるところには必ずといって良いほど見られた。シロバナタンポポの分布は散発的で、山間部にはほとんど見られなかった。クシバタンポポは香川県西南部の徳島県に近い山間部の1ヶ所だけで見られた。島嶼部の調査は充分ではなかったが、外来タンポポは島嶼部でも見られた。しかしながら豊島では外来タンポポは見られず、カンサイタンポポだけが見られた。隣の直島ではカンサイタンポポが少なく、ほとんどが外来タンポポであったのとは対照的であった。

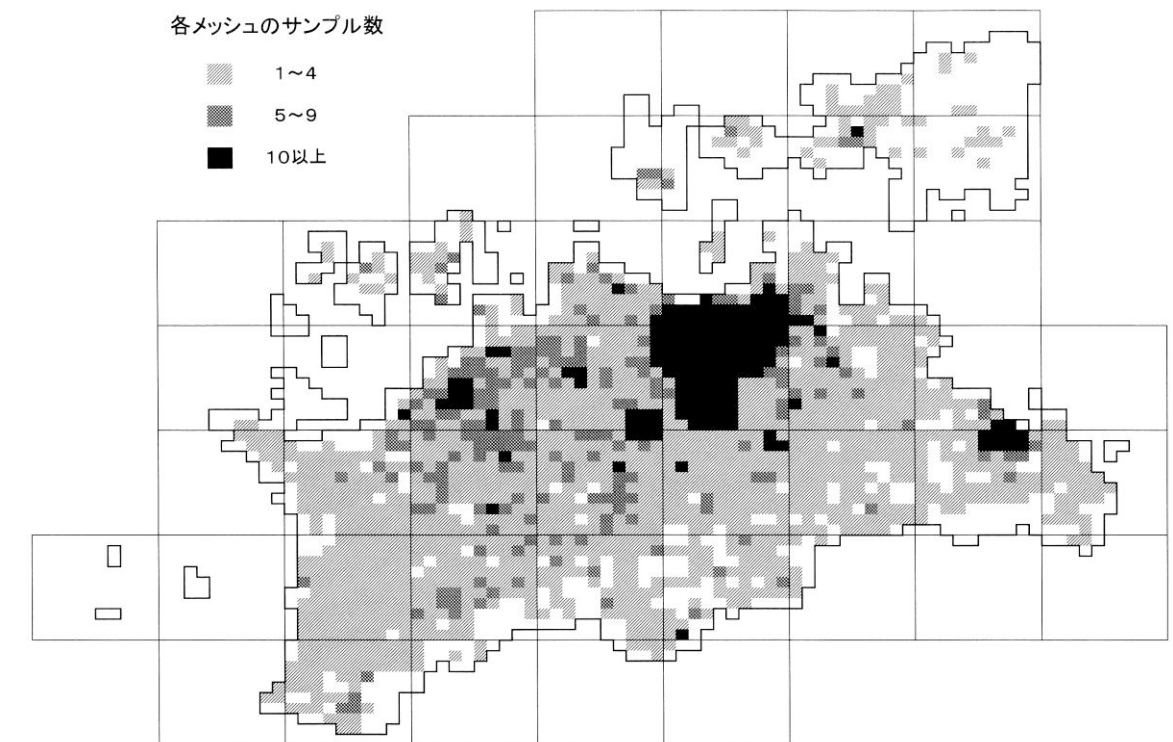


図1 香川県の各3次メッシュのサンプル数

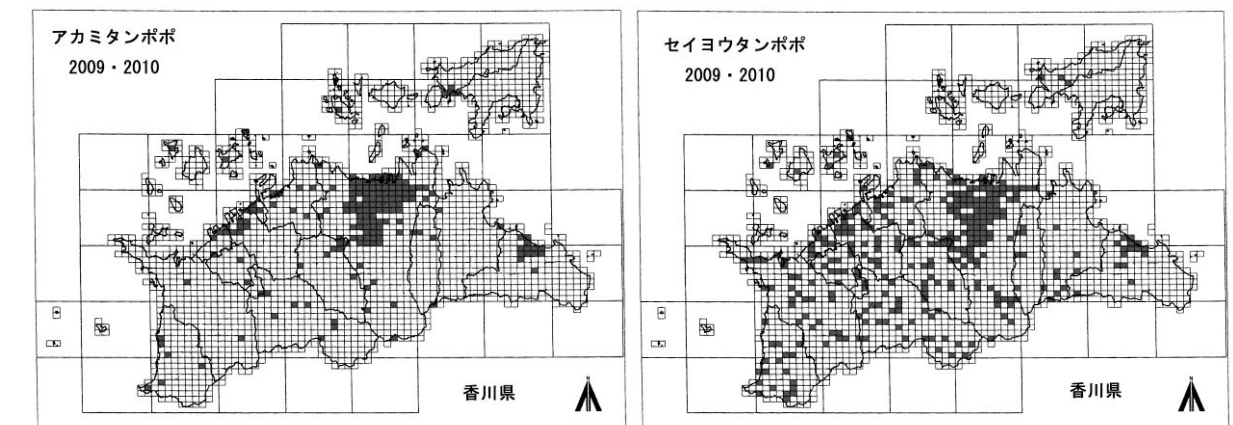


図2-1 香川県のタンポポ分布メッシュ (2009年・2010年調査) (その1)

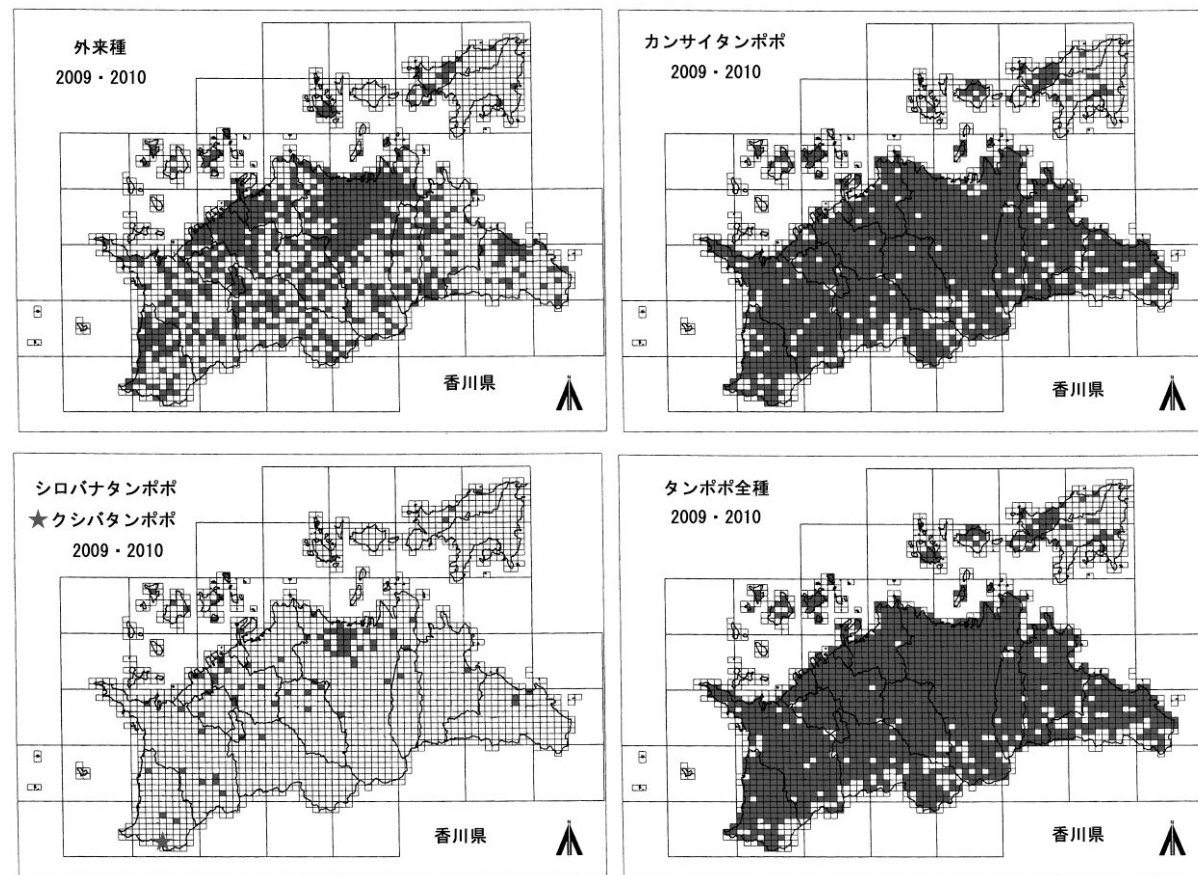


図2-2 香川県のタンポポ分布メッシュ (2009年・2010年調査) (その2)

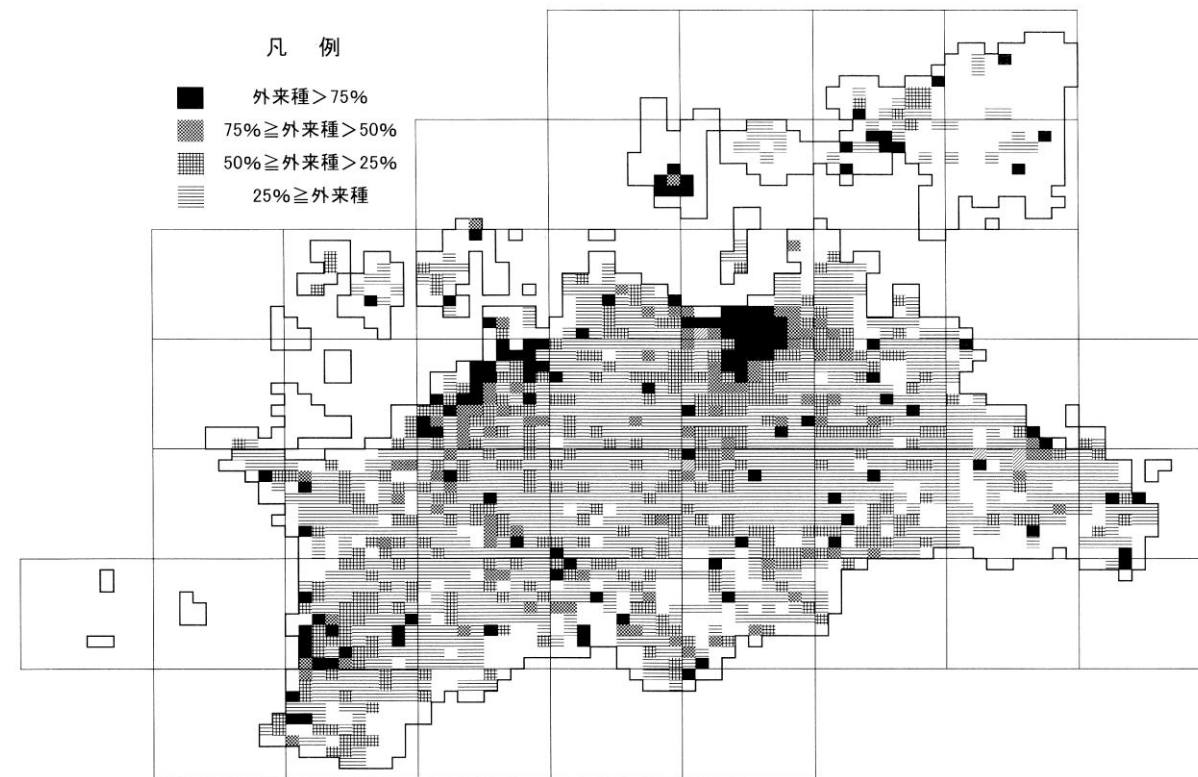


図3 香川県の外来タンポポの割合メッシュ (2009年・2010年調査)

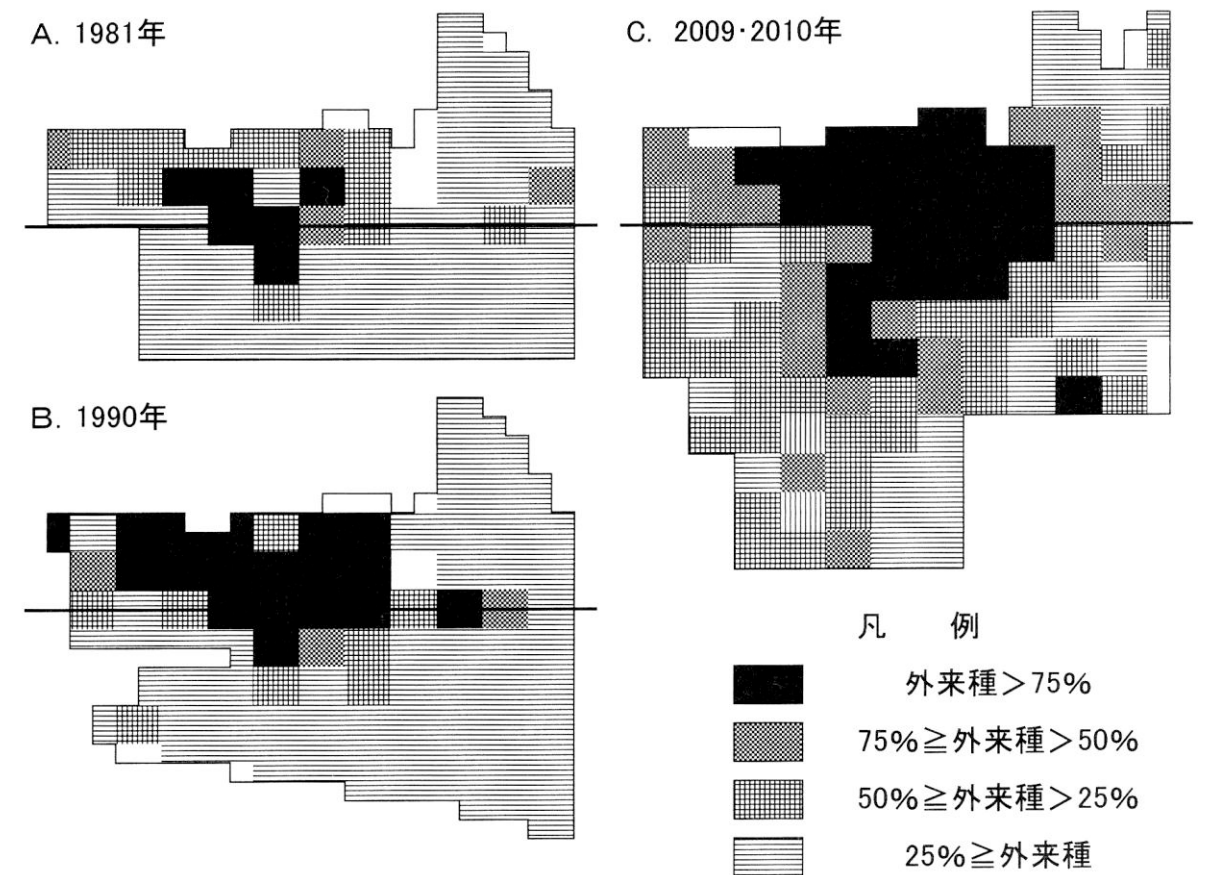


図4 高松市市街地における1km×1kmメッシュ内の外来種の割合の変化.

③ 外来タンポポの分布の割合

これまでの近畿地方でのタンポポ調査の例にならって、香川県の外来タンポポの割合メッシュを作成し、図3に示した。高松市の市街地を始め、坂出市から多度津町にかけての沿岸部など、都市化の進んだところで、外来タンポポの割合が高いことがわかる。その他、内陸部でも点々と外来タンポポの割合が高いメッシュが見られるが、多くはサンプル数が少なかったため見られたのが外来種であったようなメッシュである。しかしながら、内陸部でも、交通の要所に道の駅があるため、多くの人から道の駅近くの外来種サンプルを寄せられ、外来種の割合が高くなったような例もある。

④ 高松市市街地での外来タンポポの分布拡大

高松市市街地では過去に詳しい分布調査を行っているが、今回も市街地を中心に同様の調査を行った。それをもとに1km×1kmメッシュ内の外来種の割合メッシュを作成して、1981年、1990年の調査結果と並べて示したのが、図4である。図4AとBは末広・新見(2010)により、それぞれの図の横太線より上は2万5千分の1地形図「高松北部」、下は「高松南部」の範囲を表す。過去2回の調査に比べて、今回の調査では、外来種が大幅に分布を広げているのがわかる。

(3) 文献

- 末広喜代一・山奥恭子・田岡美奈子・蓮井博子. 1989. 高松市におけるタンポポの分布. 香川大学教育学部研究報告第II部 39: 103-126.
- 末広喜代一・新見紀子. 2010. 高松市市街地におけるタンポポの分布. 香川大学教育学部研究報告第II部 60: 19-30.